

□ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい（設問の都合上、本文を省略した箇所がある）。

自己を語るのは、相手に自分のことをわかつてほしいからだ。それなら、その語りは他の人にとつてもわかりやすいものでなければならない。人が理解しやすいのは、意味をもつたまどまりだ。

ある出来事があつて、その結果ある事態が生じた、自分の中にある変化が生じたというようなわかりやすい流れがなければならぬ。そうした流れの ^a エンチヨウ に今の自分があるのだということが ^b セットク力をもつて語られなければならぬ。

このように自己はひとつ物語として語られる。そして、自己理解というのも、そのような語りを通して深まつていく。

そこで、僕は、自己物語の心理学を提唱してきた。

「自己物語の心理学とは、人はだれもが物語的 ^c ブンミヤク を生きており、その物語的ブンミヤクに沿つて目の前の現実を解釈し、日々の行動のとり方を決定し、また自分の過去を回想し、自分の未来を予想するという立場をさす。」（榎本博明『^d ほんとうの自分』のつくり方）

自己物語とは、自分の行動や自分の身に降りかかった出来事に意味づけをし、諸経験の間に因果の連鎖をつくることで、現在の自己の成り立ちを説明する、自分を主人公とする物語のことを指す。

自己物語の形成にあたっては、僕が ^e ①自己物語化 と名づけた解釈のプロセスが動いている。自己物語化とは、現在の自己の成り立ちを説明できるような自己物語を構築するために、時間的流れの中に因果の連鎖をつけながら各エピソードを位置づけていくことを指す。

人生の転機 ということがよく言われるが、それは自己物語が ^f 破綻し、機能 ^g フゼン に陥ることを指している。

自己物語は、いわば自叙伝のようなもので、新たな経験を組み込みながら日々 ^h コウシン されている。ただし、新たな経験は既存の自己物語の枠組みに沿つて解釈され、組み込まれるため、それほど大きな変化は生じない。かりに自己物語の枠組みにうまく収まらない経験、矛盾する出来事があつたとしても、可能なかぎり無視されたり、都合よく歪められたりして、既存の自己物語に組み込まれる。

たとえば、優等生の自己物語を生きている人の場合、試験で悪い成績を取つたとしても、「 」とか「 Y」とか「 X」などと都合よく解釈し、優等生の自己物語は維持される。

でも、自己物語にどうにも組み込みにくい出来事が続くと、はじめのうちは無視したり歪めたりしていくも、そのうち無視できなくなる。自己物語に綻びが見え始める。

たとえば、これまではずつと良い成績が取れていたのに、このところ成績が伸び悩み、今度こそと頑張つたつもりなのにまた悪い成績を取つてしまう。そうなると、優等生の自己物語を維持するのは難しい。そこで、日々のコウシンとは別に、自己物語の大幅な改訂が必要となる。ⁱ 新たな状況にふさわしい新たな自己物語を再構築していく必要がある。人生の転機 というのは、このような自己物語の破綻を意味する。

そこでは、過去のさまざまな経験のもつ意味の再点検が行われ、新たな状況によりふさわしい自己物語の再構築が目ざされる。その際、自分にとつて都合のよい解釈が可能な経験が拾い出され、わかりやすい流れのもとに位置づけられる。

僕たちは、過去に経験したことがらを抹消したり他の人の経験と交換したりすることはできないものの、個々の経験の重みづけや意味づけを変えることで、同じ過去経験の素材を背負いながらも、まったく趣の異なる自己物語を打ち立てることができる。

たとえば、受験に失敗したという事実は変えることはできないけれど、そうした事実に対し、「これまでの努力がまったく無駄に終わつた。あれで自分の人生の軌道が狂つた」みたいにネガティブな意味づけをする」ともできれば、「あれがきっかけで将来について真剣に考えるようになった」というようにポジティブに意味づけることもできる。

スポーツの盛んな学校に転校したせいで、これまで部活で活躍していたのにレギュラーになれなくなつたという事実は変えることはできないけれど、「そのため自信をなくし、のびのびした性格からいじけた性格になり、引っ込み思案で消極的になつた」と A に意味づけることもできれば、「そのため自信をなくしていじけたこともあつたけど、頑張つてもなかなか報われない人の気持ちがわかるようになつたし、ちょっと消極的にはなつたけど、人間的な深みが出たんじやないかと思う」と B に意味づけることができる。

このような自己物語の破綻と再構築をめぐる ^j 葛藤 が、ときに個人を危機に迫り込む。

青年期や中年期が危機となりやすいのも、それまでの生き方を再点検し、ときに大きな方向転換をしていく必要に迫られる、つまり自己物語の大幅な改訂が求められるからだ。そのような意味で、^k ③人生の危機 とは、現実の出来事そのものの危機 というよりも、そうした出来事を意味づける自己物語の危機 といふことができる。

（榎本博明『^l 自分らしさ』つて何だろう？自分と向き合う心理学』による）

注 ※1 破綻——ものごとが成立しなくなること。
※2 葛藤——心の中で相反する欲求や感情がからみ合い、そのいずれをとるか迷い悩むこと。

問1 波線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。ただし、楷書で大きくていねいに書くこと。

問2 傍線部①「自己物語化」とあるが、どうすることか。それを説明した次の文の空欄を指示に従って埋めなさい。

現在の自分がどういう人なのか、他人が聞いても 分が経験したことにして がら説明できるようにすること。
I・本文中より十字以内で抜き出し になるよう、これまでに自 II・本文中より五字以内で抜き出し をし、 III・本文中より五字以内で抜き出し をつくりな

問3 本文中の □X・□Y に入る表現として 適当でないものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア たまたま苦手なところばかりで運が悪かつた

イ 今回はいろいろあって集中できなかつた

ウ 周りの人がほんとうに勉強をし始めた

エ 前の夜に遅くまで頑張りすぎて眠たかつた

問4 傍線部②「新たな状況にふさわしい新たな自己物語を再構築していく必要がある」とあるが、どのような形で再構築していくのか。八十字以内で説明しなさい。

問5 本文中の □A・□B には、それぞれ「ポジティブ」・「ネガティブ」のどちらかが入る。その組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア A ポジティブ B ネガティブ

イ A ネガティブ B ポジティブ

ウ A ポジティブ B ネガティブ

エ A ネガティブ B ネガティブ

問6 傍線部③「人生の危機とは、現実の出来事そのものの危機というよりも、そうした出来事を意味づける自己物語の危機」ということができる」とあるが、筆者はどのようなことを言いたかったのか。それを説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が慣れ親しんできた自己像を全く異なるものへと変化させなければいけない時期がきてためらつてしまふことが人生の危機だということ。

イ 自分自身がよりどころにしていった自己像を親しい人たちから否定されて立ち直ることができなくなってしまうことが人生の危機だということ。

ウ 自分が自信を持ち保ってきた自己像を周囲の人が期待するように作り直さないといけなくなってしまうことが人生の危機だということ。

エ 自分自身が納得できるかたちで存在していた自己像を不本意ながらも変えざるを得ないようになってしまふことが人生の危機だということ。

□ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

一年のうちに、いちばん忙しい日。いちばん一生懸命で、充実感のある日。そしてちょっとびしき日。それが私のクリスマスだ。

二年まえの春、パティシエの道に飛びこんだ。地元の大学を卒業、地方銀行の一般職に就職。何不自由ない実家暮らし。順風満帆、青空いっぱいの人生を歩み始めた。なのに突然、私はそのすべてを捨ててしまった。理由は明快だった。「人生で、ほんとうにやりたい、たったひとつのこと」に気づいてしまったのだ。

子供の頃から大好きだったお菓子づくり。どんなに残業があるうと、帰宅して夜十時から「さあ作るぞ」と取りかかる。「休みの日だけにすればいいのに」と母があきれてため息をついても、「お前の晩飯は、またシュークリームか」と父にA小言を言われても、お構いなし。だって、何より好きだから。

ケーキを作っているときが、いちばん自分に戻っている気がする。忙しくたって、ちょっと人間関係に疲れてたって、丈夫。お菓子を作つてさえいれば、□X 元気が^a湧いてくるんだから。

二年まえのクリスマスイブ。翌日のホームパーティーのために、私は特大のクリスマスケーキを作っていた。

真夜中の、静まり返ったキッチン。スポンジに生クリームを塗つて、最後に真ん中に真っ赤なイチゴをぽつりと置いた瞬間、突然気づいてしまった。

どうしてこんなに好きなことがあるのに、私はそれを人生の真ん中に置こうとしないんだろう？

真っ赤なイチゴは、I 私の心に灯つた、ささやかだけれど確かな光だつた。

今の仕事を辞めて東京へ出る、という私の決意に母は黙りこみ、父は猛反対だった。父は、私が安定した生活を捨てること、家族の下から離れることにどうしても納得できないようだった。私は一晩中、父に語りかけた。どうしても、わかつて欲しかった。父は□Y と聞いていたが、やがて立ち上がりと、後ろ姿で小さくつぶやいた。

「勝手に行つてしまえ」

いつも元気よく話し、大声で笑っている父。幼い私を広い背中におぶつて、どこまでも歩いてくれた父。^①その父の後ろ姿が、力なくドアの向こうへ消えていった。

ふるさとに一方的に別れを告げて、私はひとりで上京した。

憧^{あこが}れのパティシエのアトリエのドアを何度も叩^{たた}き、ようやくスタッフになつた。朝三時起きで厨房^{ちゅうじゆう}の掃除。買い出しや店頭での販売をして、なかなかケーキ作りに参加できない。去年のクリスマスシーズン、ようやく下地づくりとトッピングを任せられた。

嬉しくて、必死になつた。ルビーのように輝くイチゴを、ひとつひとつ、心をこめてのせていった。

このケーキが、全部れますように。クリスマスの日、店頭に立つて、汗をかきながら接客した。

結局売れ残つてしまつたケーキを、パティシエが「来年は完売目指すぞ」と言いながら、渡してくれた。深夜に帰宅してケーキの箱を開け、ひとりぼっちのクリスマスをした。

みんな、どうしてるかな。

家族の顔が目に浮かぶ。^{いちばんまことに}一人前にケーキを作れるようになるまで、帰らない。そう決めていたけど、ほんとうはさびしかつた。

今年もクリスマスシーズンがやつてきた。

「今年のショートケーキ、作つてみる?」

パティシエにそう言われて、一気に緊張した。初めて全部任せられたのだ。出せる力のすべてを注いで、作るんだ。そしてもし、完売したら。

ふるさとに帰ろう。そう決めた。

クリスマスの日、店頭に立つた。ひとつ、ふたつ、私のケーキが売れていく。

「完売しそうだな」

パティシエが^②私の肩を叩いた。

夕方、まぶしそうにケースを眺めていたが、やがてふつと笑顔になつて言った。

閉店時間が近づいてくる。私は^b焦^{あわ}つた。このままだと、売れ残つてしまふ。あと十分。まだ十ピースも残つてゐる。私は祈るような気持ちになつた。

「ケーキいなさいますか?」

父は、まぶしそうにケースを眺めていたが、やがてふつと笑顔になつて言った。

「このイチゴのやつ、全部ください!」

私は大きな箱に、十個のショートケーキを、ひとつひとつ、ていねいに並べる。^③胸がいっぱいになつてくる。ふと、父の声がした。

「ひとつだけ、別の箱に入れてくれますか?」

大きな箱と、小さな箱。ふたつの箱を差し出すと、それを受け取つた父は、小さな箱を私の目の前に^Bぶつきらぼうに突き出した。

「ほら、お前の分。いい加減に帰つて來い」

ドアの向こう、暗い通りへ出て行く父の背中が、^Zにじんで見えなくなつた。

小さな箱の片隅に、ぽつんと座つた、たつたひとつのイチゴのショートケーキ。

(原田マハ「ささやかな光」による)

問1 波線部a～cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問2 二重傍線部A・Bの語句の本文中の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 小言を言われても ア 文句を付けられても

　　イ 悪口を浴びせられても イ 悪口を浴びせられても

　　ウ 一言つぶやかれても ウ 一言つぶやかれても

　　エ 静かにさとされても エ 静かにさとされても

問3 本文中の^X～^Zに当たる言葉として最も適当なものを、次のア～カのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ふんわり ア ふんわり

　　イ むつり イ むつり

　　ウ ジんわり ウ ジんわり

　　エ きらきら エ きらきら

　　オ むくむく オ むくむく

　　カ ぞくぞく カ ぞくぞく

問4

傍線部①「その父の後ろ姿が、力なくドアの向こうへ消えていった」とあるが、ここの「私」についての説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分がわがままを言つてしまつたために、父からいつもの元気が感じられなくなり、もしかしたら体調を崩してしまふのではないかと思っている。

イ 家族に一方的に別れを告げてしまつたために、父を激しく怒らせてしまい、もう一度と昔のような仲の良い家族に戻ることはできないと感じている。

ウ 自分の決意をうまく伝えることができなかつたことで、父の理解を得ることができず、やさしかつた父との関係をこじらせてしまつたと思っている。

エ 自分の意志を貫こうとしてことで、ずっと支えてくれた父をひどく落ち込ませてしまい、大切な父とのつながりを失つてしまつたと感じている。

問5 傍線部②「私の肩を叩いた」とあるが、この時の「パティシエ」の気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア うまくいきそうでよかつたな、という気持ち。

イ まだまだ気をゆるめるなよ、という気持ち。

ウ 少しぐらいなら休んでいいよ、という気持ち。

エ あとはお前にもかせたぞ、という気持ち。

問6 傍線部③「胸がいっぱいになつてくる」とあるが、「私」がこのようになつたのはなぜか。七十字以内で説明しなさい。

問7 破線部I「私の心に灯つた、ささやかな光だった」・II「私の心を灯すささやかな光になつた」とあるが、それぞれの「光」が表すものについての説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア Iの「光」は、自信を持つて好きなことをやることができるという思いを表しており、IIの「光」は、遠く離れている家族の元にできるだけ早く帰りたいという思いを表している。

イ Iの「光」は、やるべきことが見つかってこれから先の未来に期待する思いを表しており、IIの「光」は、自分はちゃんと家族から支えられ認められているという思いを表している。

ウ Iの「光」は、思いがけず未来の目標が見つかった喜びに満ちた思いを表しており、IIの「光」は、これからも自分の目標に向かって努力し続けていこうという思いを表している。

エ Iの「光」は、好きなことをやつてうまくいくのだろうかという思いを表しており、IIの「光」は、皆のおかげで

着実に自分の人生を歩むことができているという思いを表している。

三

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

映像は本に比べて、はるかに大きな力で見る者をとりこにします。動くイメージ、音声、音楽などが一体となつた力に抵抗するのは、大人でさえむずかしいのですから、子どもはなおさらです。しかも映像は、映像の側の時間の流れに、見る者を従わせます。ビデオなら早送りや巻きもどしもできないわけではありませんが、本を読むときのように自由に立ち止まつたり、もともどつてみたり、想像力が働きやすいスピードを選んだりといふわけにはいきません。

① そんな映像を見ながら、物事を筋道立てて考へるというのは、ひじょうに困難です。たとえ気になることがあつても、考えようとするうちに映像は先へ先へと進みますから、それも見ていなければならず、気になつたこともじきに忘れてしまします。ところが本の場合は、気になれば立ち止まって考えたり、前にもどつてたしかめたりできます。その結果、物語に大きな矛盾が見つかると、せつかく想像力で作りつづあつた世界が壊れてしまい、先を読む気が失せることもあります。あまりにひどい矛盾があるということは、作者がちゃんとその世界を構築せずに書いているということですから、そこで起ることに「喜一憂してもむなしいと感じるのです。

その点、映像なら、□X□ひどい矛盾があろうとも、ろくに気にする暇もなく先へ先へと進みますから、それなりに楽しみ続けられます。だつたら映像のほうがいいかというと、そうではありません。物事の筋道が通つていないと、それに気がついてきちんとたしかめられるというのは、人間にとつて必要な能力です。本を読んでいると、要所要所でそれまでのことを整理してみる必要を感じ、筋道が通つていることを確認しては先へ進んでいくことになりますが、だからこそいのです。雑に書かれていて読む気が失せるような本は、読む価値がないのであって、本を書く人は、^a粗雑^bさで読者をしらけさせないように、しっかりとその世界を構築しなくてはなりません。ファンタジーの場合は、その世界が独特的な魅力にあふれていれば、たとえ少々の矛盾に気がついても、醒めた意識は片すみにしまつておけます。つまり、長く読み続けられてきた本というのは、数多くの読み手による試練を立派にくぐり抜けてきた本だと言えるわけです。

□Y□、最近子どもたちに人気があるという本には、いたるところ矛盾だらけのものが目立ちます。設定のあちこちに綻^{ほころ}びがあつても、子どもたちはそれを気にせずに楽しんでいます。□Z□、あからさまな矛盾があらうと、少しも気づいていないようなのです。そんな本を読んでみて気がつくのは、それらが、^b挿絵^aがあらうとなからうと、頭のなかに映像を思い浮かべて読むように作られていくということです。

目の前にないものを思い浮かべるのが想像力なら、そこにはない映像を思い浮かべるのも想像力の働きではあります。しかし、言葉を頼りに情景や人物を思い浮かべ、物語の世界に入りこむことと、作者が言葉によつて描き出した映像を思い浮かべることとは、明らかにちがっています。最近の物語作者たちは、だれしも映像世代ですから、「ああ、この場面は映画のようだな」と感じさせられることがしばしばあります。カメラがまづ風景をとらえ、それから横に移動していくと主人公が

立っているのが見え、^{*1} ショットが切り替わってアップになる、といった一連の映像が、自然に頭に浮かんでくるのです。それはつまり、作者自身が頭のなかに映画やアニメを作り、それを言葉に変換しているということであつて、映画以前の文学作品にはそういう書き方はありませんでした。

② こういう書き方は意識的な文学技法として使われることもあり、それ自体が悪いわけではありません。しかし、最近の子どもの本での使われ方には、③ いささか問題を感じます。頭のなかに映画やアニメを作るにしても、まず物語の世界を構築し、登場人物たちを作り、出来事を矛盾なく組み立てていって、それからどの場面をどう「映画化」するかを考えるのなら、それはそれでいいのです。しかし、いきなり頭のなかに映画やアニメを作りながら書くと、どうしても矛盾だらけになりやすいように思います。なぜなら、そんな書き方をする作者の想像力は、それまでに見た映画やアニメの印象的なショットに依存しがちで、こんなショットの次にはこんなショットが効果的、といつたぐあいに考えてしまふと、世界として、人物として、出来事としての筋道や一貫性は、置き去りにされかねないからです。

そんなふうに書かれた物語を読んで、世界、人物、出来事を、ファンタジーならファンタジーなりにリアルなものとして想像しようとすると、たちまち矛盾にぶつかって、挫折します。しかし、映画なりアニメなりの映像を思い浮かべながら読むと、ショットからショットへとそれなりに巧みな流れが作られているのがわかります。子どもたちがそういうものを読んで、どんなに矛盾があるうと気にしないのは、そのせいではないでしょうか。しかしそれでは、たとえ文字を読んでいるように見えて、ほんとうに想像力や思考力を働かせて本を読んでいることにはなりません。つまり、④ 読書によつて培われる力のトレーニングにはならないのです。こんな書き方の本は、今後ますます増えていきそうだけに、子どもたちが本を読んでいさえすれば安心と、たかをくくらないでいただきたいと思います。

（脇明子『読む力は生きる力』による）

注 ※1 ショット——映画やテレビの撮影で、切れ目なく撮られた一続きの場面。

問1 波線部 a ∕ c の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問2 本文中の [X] ∕ [Z] に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア ∕ オのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ つまり ウ なぜなら エ しかし オ たとえ

問3 傍線部①「そんな映像」とあるが、それについての説明として適当なものを、次のア ∕ オのうちから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 映像の中に流れている時間に、見る者が強制的に従わされてしまう。

イ 音声や音楽などが作り出すイメージが、見る者を過度に興奮させる。

ウ 映像の一体感によって、子どもの認識能力が狂わされてしまう。

問4 傍線部②「こういう書き方」とあるが、その具体的な内容に相当する部分を、解答欄に合うように三十字以内で抜き出しなさい。

問5 傍線部③「いささか問題を感じます」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のア ∕ オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 作者が印象的なショットの組み合わせだけをひたすら追い求めてしまうと、物語の世界を構築して出来事を矛盾なく組み立てる能力の喪失につながるから。

イ 力のない作者が自分の頭の中で勝手に想像して映画やアニメをつくってしまうと、それを支える物語の論理性が全くなくなってしまう可能性があるから。

ウ 印象的なショットが作者によつて意図的に連続して取り入れられてしまふと、物語の中の筋道や一貫性から読者が取り残されてしまうことがあるから。

問6 傍線部④「読書によつて培われる力」とあるが、これはどのような力だと考えられるか。本文全体を踏まえて五十五字以内で説明しなさい。

問7 この文章を読んだ生徒A ∕ Dが次のア ∕ エのようなりとりをしていました。本文の内容を正しく理解した発言として最も適当なものをア ∕ エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A——筆者は映像と本を比べているけど、結局は本よりも映像の方が優れていると述べているんじやないかな。

イ 生徒B——そうかな。筆者は、映像の特性に注目しながら、子どもにとつて本当に必要な本とはどのようなものかを示そうとしているんだと思うよ。読むべき本を読むことが大事だということを述べているんだ。

ウ 生徒C——確かに本を読みさえすれば安心というのは誤りだとは書いてあるけど、それは映像とは無関係なんじやないかな。ファンタジーのような、リアルとはほど遠い本を読むべきではないと述べているんだよ。

エ 生徒D——それはちがうよ。映像も本も見るものであるという点で関係があり、両者の共通点を理解することが大切だと筆者は述べているんだ。共通点を踏まえて本を読むことで読書がよりよいものになるんだよ。